

NICE

Numazu association for International Communications & Exchanges

Vol.62

発行日 2007年6月30日
発行者 NICE沼津国際交流協会
(企画広報部会)
所在地 沼津市御幸町16番1号
(事務局) 沼津市役所地域づくり推進課国際交流室内
☎055-934-4717



さあ、技能五輪に向けて始動!

平成19年度総会開催

第39回技能五輪国際大会が11月14日(木)～11月21日(木)に沼津市門池地区で開催が予定され、その準備が着々と進んでいます。当協会に対しては特に期待が寄せられているなか、平成19年度沼津国際交流協会（NICE）総会が5月12日(土)午後6時より沼津市寿町ブケ東海フェニーチェの間で、引き続きアドリアの間に会場を移し懇親会が行われました。



始めに安田政義会長挨拶、ご来賓を代表され天野幸男副市長より斎藤衛市長からの祝辞を代読していただきました。

引き続き、協会規約により安田会長が議長を務め、式次第に従い18年度各部会報告、事業報告、真野みどり事務局長より会計報告、松井泰樹監事より会計監査報告、続いて平成19年度事業計画、収支予算、そして沼津国際交流協会国際交流フェア実行委員会設立等が審議され、満場一致をもって承認され、滞りなく議事が進行致しました。

懇親会では、安田会長挨拶、続いて沼津市日中友好協会副会長芹沢二夫様よりご祝辞を賜り、青年会議所専務理事原田浩様のご発声による乾杯と続きました。



久しぶりに会ったメンバー、イベントの思い出、技能五輪の話題等、懇親会ならではの和やかな雰囲気の中でしばし時間が経過したところで、技能五輪推進室遠藤室長による技能五輪国際大会に向けての経過報告、我が協会への要望を話していただき、その後積極的な質疑応答を通して以下のような具体化された内容の詳細を説明していただきました。

●大会の準備状況

1. 会場整備の状況
2. 参加国・競技職種
の状況
3. 交通輸送計画について

●沼津市としての取り組み

技能五輪国際大会沼津市推進協議会において、地域産業の振興・活性化に向けて、産官学市民が一体となって次の事業に取り組む

1. 「大会周知」事業
2. この大会を通じて「地域の魅力発信」事業
3. 「ものづくりの啓発」事業
4. 沼津を好きになつてもらふ為の「交流」事業

●沼津国際交流協会への要望

1. 門池サテライト会場における国際交流フェアの運営
2. 大会期間中の英語を中心とした通訳ボランティアの確保
3. スポークスマンの登録
4. 大会の見学など

来場者全員で沼津市にて技能五輪国際大会が開催されることの意義を再認識し、最後に沼津国際交流協会理事三須王左武さんの音頭により「ゴキゲンぬまづ!!」と力強くシュプレヒコールを行いました。



最後に、田中治之沼津国際交流協会副会長の挨拶で、「失敗は許されません。世界中が沼津市を注目しているこの大イベントをみんなで力を合わせ大成功させましょう」と結び、閉会となりました。

— 姉妹都市カラマズー市から訪問団来沼

カラマズー部会

ようこそ桜の季節の沼津へ!

「歓迎会」

どうか持ちこたえてくれた桜と、雪化粧の富士山と、準備万端のスタッフと、期待いっぱいのホストファミリーが、21名のお客様をお迎えしました。4月9日の夜はブケ東海で、百余名参加の盛大な歓迎会です。

会は、主役であるゲストの方々の紹介で始まりました。入場扉に、会場内全員の注目が集まります。スポットライトを浴び、順に紹介されるゲスト。あるご夫婦は披露宴の新郎新婦のように、またある方はディナーショーのスターのように、拍手の中を少し照れくさそうに歩いて、それぞれのテーブルに着席されました。

そしてまずは、静かに華やかにお琴の演奏。この季節にお迎えできたらうれしさをこめて、桜にちなんだ2曲を聴いて頂きました。お琴の余韻が残る中、両市長、NICE会長、訪問団団長のスピーチがありました。お話を伺いながら、長い間交流を重ねてきた、その重みをしみじみ感じました。



さあ、食事の開始です。緊張がほぐれ、ゆったり食事とおしゃべりを楽しみました。食事が一段落したところで、前回好評だったネームカードゲームの時間です。たかがジャンケン、されどジャンケン!! 賞品を目指し、いろいろな人と言葉を交わして、カードの数を競い合い、大いに盛り上がりました。

あっという間の2時間が過ぎました。ゲストの方々と、お迎えする私たちと、再会を喜び合ったり、新しい出会いがあったり、なごやかで温かい歓迎会でした。

市内の施設視察

4月10日、8時30分、沼津駅北口ロータリーを足高の沼津工業団地に向けて出発しました。バス内で、地元の異業種の企業16社が集積する工業団地をビデオで紹介しました。

工業団地では、2組に分かれて耕文社とサツマ電機を視察しました。サツマ電機では、梶川社長から、会社と事業概要の説明があり、工場内で電磁ブレーキの製造プロセスを見学しました。沼津市広報紙を印刷する耕文社では、井澤執行役員から会社と事業概要が紹介されました。その後、最新の印刷技術を使った製版、刷版、オフセット印刷、製本の工程を見学しました。ゲストはサツマ電機で手作りの雛人形のしおり、耕文社で富士山周辺マップのギフト等を頂きました。

移動するバス内でビデオを使って技能五輪の紹介をしました。会場の北側で降車し、掲示パネルを使って市担当職員から建設中の会場について説明を受けました。バスの車窓からテクノ



カラマズー部会

カレッジなど建設済みの3棟などを視察後、門池公園で小休止して、青空の下で桜の花見ができてとても喜ばれました。

沼津高専では、大島校長他担当教官の出席の下に、映像で我が国特有の高専の制度や学校の説明があり、ゲスト数人から、授業料、教官の男女比率、女学生数などの活発な質疑応答が行われました。その後、実習工場でCADや数値制御工作機械の実演を見学しました。また、屋上から富士山、箱根の連山、キャンパスを展望しました。

リコー沼津事業所では、コミュニティホールで昼食・歓談後、会議場で安達事業所長の歓迎挨拶と事業所の紹介があり、大型スクリーンを使ったビデオで米国など世界に展開する事業活動が紹介されました。工場に移動して、コジェネ、リサイクル市場、ソーラーパネルを建物全面に貼った太陽光発電の見学を通して徹底した環境保全活動を知りました。続いて、サーマル製品の製造ラインを見学しました。

最後の御用邸は、皆さんが気の向くままに邸内の展示物を見たり、庭園を散策したり、リラックスした感じでした。過密スケジュールの中、「忙中閑あり」でよかったですと思います。



中村房子さん追悼植樹 「In Loving Memory」

美しい思い出を込めて（記念プレートより）

4月9日 中央公園にて、昨年4月に亡くなられた故中村房子カラマズー前部会長の為の記念植樹が市長表敬を終えたハンナ・マッキニーカラマズー市長始めカラマズー訪問団、安田会長、池田部会長、NICE会員の手によって執り行われました。

■ 昨年の夏、沼津市民訪問団がカラマズーを訪



れた際、中村さんを追悼してブロンソン公園に植えられたものと同じ桂の木とプレートがカラマズー市より贈られたものです。桂の木は、日本原産の木で、丸く薄い葉が涼しげで中村房子さんが、思い起こされます。

フランク・ジャミソンさんが代表して「中村房子さんは、いつも笑みを持ち、親切で寛容で、エレガントな女性でした。そして、交換留学生の世話など、日本・アメリカ両国の間で多大な貢献をなさいました」と追悼の言葉を述べられました。

中央公園とブロンソン公園に植えられた桂の木成長と共に中村房子さんの願いでもある両市の交流がいつまでも続きますように…中村房子さんの思い出は、いつまでも人々の心に残る事と思います。

富士砂防、泉水源地、びゅうお

なぜ富士山なのか。富士山は日本の象徴、日本人の心の故郷。気高く、優しく、美しく、車窓から一目会っただけでも心は癒される。

しかし、富士山は日々刻々その姿を変え、畏怖の念を抱かせる山でもある。西は最大の難所、大沢崩れに毎年何億もの巨費を投じ、土木工学の粋を結集して、崩れのメカニズムに対峙し、人命を守ってくれる。これは終わりなき自然との闘いである。

カラマズー部会

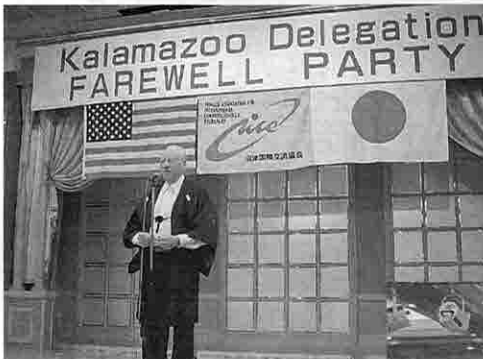
4月11日、富士砂防事務所所長様、係の方々の映像を交えての講義と現地見学によって、山を持たぬカラマズー市の人々に感銘を与えた。



富士桜の咲き誇る公園で食後の一時を過ぎ、車は沼津に戻る。富士山を美しく覆う雪、激しく降る雨、これらはすべて数々のロマンをかきたてる伏流水となって泉水源地に至り、沼津市民の命の水となることを学んでいただく。ミシガン湖の汚染を経験した彼等は、湧水をそのまま飲めるとは信じ難いことであると羨望を集めた。

この湧水は柿田川から狩野川を経て駿河湾に注ぐ。そして、市民の食欲を満たす魚を育てる。しかし、自然はいつも笑顔ではない。一旦湾内の歪みが動けば津波となって沼津を襲うことになる。だから「びゅうお」がある。「びゅうお」と命名の由来を話し、「びゅうお」の始動が永遠にないことを祈る市民の複雑な真情を吐露し、暮れなずむ水平線を共に愛でることが出来た。

富士山から駿河湾まで、厳しくも神秘的に満ちた自然の恩恵を受けて生きる沼津の姿を学んでいただいた一日であった。



(4/15 送別会)

(4/15 送別会)



(4/12 大中寺にて)

(4/12 大中寺にて)



(4/12 大中寺にて)



「日本語を語る会」ではこんな取り組みも

3月10日、4月7日と21日の「日本語を語る会」は、図書館休館日のため、大手町会館とパレットに会場を移して行われました。

この日は通常のテキストを使った学習ではなく、ゲームやコミュニケーション活動を通して日本語に親んでもらえるプログラムを、スタッフが準備、運営しています。

3月10日の「自己紹介ビンゴ」では、スタッフが日頃から心がけて集めているUFOキャッチャーのぬいぐるみが景品となり、そのかわいらしいプレゼントに外国人の方は、皆笑顔でした。

4月7日には外国人の方が「かぐやひめ」などの日本昔話の朗読に挑戦しました。読み聞かせ用の大型絵本の絵も美しく、感情を込めて朗読をする方、この日初めて参加して、スタッフの助けを借りながら少しずつ読む努力をした方など、皆、人前で日本語を読み拍手をもらったことで、ちょっぴり自信がついたのではないかと思います。

「たずね人」ゲームは、全員に国籍と名前が書かれた紙を配り、決められた会話を使ってその人を探し出し、探してもらえた順に着席するものでしたが、なぜか最後まで探してもらえなかったスタッフがいて、大笑いする場面もありました。

21日には「非言語（ノンバーバル）でも話してみよう！」を企画し、表情や身振りだけで会話をするスタッフを見て、「何を話しているんだろう？」と推測してもらい、特に日本語にまだ自信の無い外国人の方々に、ジェスチャーだけでも意思の疎通が出来る事を実感してもらえたのではないかと思います。また、国によってジェスチャーの意味が異なることに気がついた方は、とても興味を持った様子でした。

他にも「他己紹介ゲーム」や、電子ピアノの伴奏で替え歌交じりの「むすんでひらいて」と「幸せなら手をたたこう」を全員で大合唱しました。



NICE中国語講座 2007

本年度は入門・初級・中級班と3クラスで5月9日に開校いたしました。

講師には北京出身の河合穎さん、上海出身の熊谷虹さん、福建出身の林愛萍さんとベテラン講師が担当していただきます。

今年11月に技能五輪国際大会が沼津で開催されます。選手、コーチと海外から大勢の方々が来沼されます。香港、台湾からも参加されますので、中国語で交流が出来るよう受講生は頑張っています。加油！加油！頑張れ！



NICE太極拳講座 2007

大人気の太極拳教室。キャンセル待ちの多い中、私はラッキーでした。老若男女30名が興味津々で集まり、第一回目が開講しました。

柔軟体操は少々きついもので、「アッ、イター！」「ムリー！」の声も聞こえましたが、優しい先生の指導で徐々に楽しくなり、音に合わせて手足をゆっくりと動かしました。

中国旅行の朝早く、公園のあちこちで、日本のラジオ体操のように多くの方が太極拳をしている姿を見て感動しました。真似してみました。とっても難しく滑稽だったと思います。

仲良くなった受講生と一歩前進の機会を与えて下さったスタッフの方々に感謝しています。

（高橋 範子）

（5月7日～28日全4回、参加者は10代後半より80代前半の方々と、出席率は98%でした）

